

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目 次

■活動報告

- 2020(令和2)年度 日本陸上競技連盟 競技運営委員会 全国競技運営責任者会議
2021年2月13日(土) オンラインにて全国競技運営責任者会議を実施。競技会実施報告・施設用器具委員会報告・競技規則修改正などについて議論を行いました。
- 第7期(2020-2021)ダイヤモンドアスリート第1回・第2回リーダーシッププログラム報告(ダイヤモンドアスリートコーディネーター田原陽介 青山学院大学)
「ダイヤモンドアスリート」制度では、選出された競技者に様々なプログラムを提供し中長期的なエリートの育成を目指しています。「国際的なリーダーシップを発揮できるアスリートの育成」を目指す、リーダーシッププログラムの第1回、第2回の様子を報告いたします。

■広報企画

- サトウ食品日本グランプリシリーズ 2021シーズン開幕
「日本グランプリシリーズ」は、2018年にスタートした、指定大会を対象に年間を通してポイントを争うトラック&フィールドの大会の総称です。2021シーズンではGPシリーズ指定大会11大会とポイント対象大会4大会の15大会で獲得したポイントによりランキングを争います。

■大会観戦ガイド

- 「第105回日本陸上競技選手権大会・10000m」
- 「READY STEADY TOKYOー 陸上競技(東京2020テストイベント)」
- 「第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技、第37回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技」

■事務局からのお知らせ

- 第105回日本陸上競技選手権大会 第1弾キービジュアル公開

information

- ・日本陸連登録料の設定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2021年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/14004/>



- ・シューズ規則/広告規定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・【東京オリンピック】
エントリースタンダード

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/12453/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



2020(令和2)年度 日本陸上競技連盟 競技運営委員会 全国競技運営責任者会議 2021年2月13日(土) オンライン会議により実施

開会あいさつ 尾縣 貢 専務理事

・コロナが収まらない中、いま私たちがやるべきはスポーツがしっかり進んでいるということ、オリンピックへの醸成を進めているということ伝えること。厳しい状況を乗り越えていきたい。

鈴木一弘 委員長

・コロナウイルスの影響で本来は一堂に会し議論なども行いたいところではあるが、このような形となったのでご容赦いただきたい。WAでもシューズのルールの変更を行ったり、コロナ対策で普段とは違う運営を強いられたいで、競技会ではご苦労されていると思う。この会を有意義な会議としたいのでご協力をお願いしたい。

事務連絡 赤峰俊彦 幹事

・短冊の配布について、会議システムの使用方法について。質問について。

公認審判用ウェアについて 青山商事株式会社

・後日、各団体に資料がメールで送付されるので、ご確認いただきたい。

競技会実施報告

(日本選手権：新潟)

・コロナ対策のロールモデルになるよう意識した。アプリを使用して密集、密接を回避した。
・準備期間が4か月といた短い期間で大会を開催した。今回のように競技運営のみで、大会費用も陸連負担で開催という形は願ってもできないもので、新潟陸協は本当にいい経験ができたことと感謝する。

(全国高校：広島)

・高校総体の中止、国体の延期で代替大会として開催した。感染症拡大防止のために無観客での実施、事前健康調査の提出、競技場入場の際にサーモグラフィカメラによる検温を実施した。

(全国中学：神奈川)

・10月16日～18日の3日間で全国中学生陸上競技大会を実施した。感染症拡大防止のため各種目参加人数を制限した。神奈川県としても昨年はほとんど大会ができず、トラック&フィールドとしては年度内初の大会となった。そのためヒヤリとする事例もあり参加競技者ならびに関係者にはお詫びが申し上げる。今回の経験を生かし今後の大会につなげていきたい。

施設用器具委員会報告 高木良郎 施設用器具委員長

・第1種、2種の基本仕様修正について。
・公認陸上競技場の細則の改正、マーキングについて、第16条LJ、TJについて、1種、2種の踏切板設置数について、レーンマーキングについて、用器具一覧、競争の用器具名称について、150m、145mのスタート位置について、障害物について、グループスタート時の代用緑石の置き方、粘土板の角度の変更、兼用サークルの表面仕上げについて、長距離競走路の注意事項、競走路コースに35kmが追加されたことなどを説明。

2021年度競技規則修正提案 片岡裕介 委員

・規則の構成体系が変更になり、CR(競技会規則)とTR(競技規則)に分かれる。
・条文の番号体系も変更となる。具体的には、第〇条●項が、CR7、TR23.1、TR24.6.1のようになる。内容は大きく変わっていない。

(2021年度修正のポイント)

・CR8 ITOs、JTOs、CR16.1技術経務、CR23.2出発係、CR31.3.5、TR4.3同時申込に関して説明。
・TR5.2競技用靴に関して、WAは昨年1月、7月、12月に改正。最新の規則でも、2021.8.8までが移行期間となっている。
・靴の種類が以下の4つに分類された。
①小売りされている靴。②カスタマイズされた靴。
③開発段階での試作品靴。④オーダーメイドの靴。
・TR5.10アシリートビブス、TR6.3、T6.4助力、TR6.4.8、TR19.24.5トランスポンダーシステム、TR23.障害物競走、TR23.7.1、水濠の越え方について、TR39.8.5混成競技について説明。
・TR29.3走幅跳、三段跳のビデオ判定の導入と90度の粘土板使用は1年延期になった。

●(長野：酒井) シューズの底の厚さについて、混成競技は全ての競技が終了した時点で「日本記録」という場合があると思うが、その際、各種目の厚さのチェックはいつ行えばいいか? 2日目が終わった後、1日目に使用したシューズのチェックでは意味が無いように思うが。

■(委員会) 競技を行う前に確認する必要がある。大会によって対応方法は異なってくるだろうが、事前に使用する靴を届け出てもらい「適合靴」がどうかをチェックする方法や、各競技の都度、ビットで計測する方法もあるかと思う。

審判手帳の利用方法について、記録の公認申請の迅速化について

関根春幸 副委員長

・審判手帳の利用方法について注意事項伝達。
・記録の公認申請について、現状30日以上としているが、いろいろな大会の資格記録として採用されることが多く、また、WAにも送信しなければならぬので、迅速な記録申請をお願いしたい。

(分科会A：競技部長対象)

①競技カレンダー・記録PTより

1) 公認競技会開催申請 鍋島太一 委員

・2021年度の申請は従来通りでお願いしたい。
・申請処理の遅れについて、申請の注意点について、2021年度1次申請/手

順、その他注意点について説明。

2) 記録用紙の改訂 片岡典子 幹事

・番号、ルール変更、使い勝手の良さ、役割の再確認、を反映して改訂を行った。
・大きく変更した監察員記録用紙・日本記録申請書の説明。日本記録申請にあたってのお願い。

②広告展示物規則PTより

1) 広告規程改訂 杉本太郎 委員

・2019年11月に条文が大幅に改定された。2020年1年かけて和訳、検討作業等を行い、今回お示りする。条文をWAの条文に合わせた。主に国内の大会に適用するのは、C7.1、C7.4、C7.5となる。

●(青森：川下) ③国内大会(学校用)で、学校名の他に「都道府県名」も表示している学校もありませんが、「[学校名+都道府県名]」は大丈夫でしょうか?

●(新潟：藤木) ユニフォームの前と背中に違う文字の入っているチームが多いですが、問題はありますか? 例) 胸は学校名、背中では都市名やローマ字表記など。

■(杉本) 学校名の表記は、前は漢字、後ろはローマ字でも可。前が学校名、後ろに学校名の代わりに都道府県名について、スポンサーを入れるのと同じと考えると最大40cm²、高さ5cmなら可。

(分科会B：審判部長対象)

①S級審判昇格審査報告 羽田雄一 幹事

・コロナの関係で、過去6年間の競技会の回数、審判講習会をカウントした。5名の方を昇格不可としたが、講習会が競技会の回数が少なかった。
・申請に際しての問題点を指摘。

②審判ハンドブックPTより

1) ハンドブック改訂の概要 関 隆史 幹事

・今回のハンドブックで工夫したことは、再レースなどの所作を具体化したこと。
・今回はコラムの欄、グループスタートにおける緑石の置き方について説明。

2) オリパラマニュアルについて 関 隆史 幹事

・今後、TDのチェック、テスト大会を通して、A5版で発行予定であるが、PDF版になるかもしれない。現在、WAからの新型コロナウイルス感染症予防対策について、マニュアルに落とし込んでいる状況である。

③審判員研修PTより

1) C級審判員創設について 本橋郁子 委員

・2021年度より導入、16歳になる年度より取得可能。業務内容には制限がある。
・取得例の流れを説明。(モデルとして)
・講習会について、取得後の委嘱について、活動の制限について、識別について説明。
・新制度の周知が必要。これにより1人でも多くの若者が陸上競技とかかわっていただけるように準備を進めていただきたい。

●(東京：古澤) C級からB級への昇格であるが、B級の更新講習を受けるべきではないか?

■(関根) 座学については、新規B級講習会をお願いしたい。実技講習会は免除しても構わない。

(全体会)

分科会報告 (分科会A) 関根春幸 副委員長

(分科会B) 鈴木一弘 委員長

・それぞれの会議の内容について報告。

JTO・JRWJ規程の改定、オリンピック・パラリンピック準備状況

鈴木一弘 委員長

・JTO、JRWJの制度を改定。登録料の徴収、定年の延長について。
・昨年3月24日にオリンピック延期が決まって、ゼロからやり直すところがたくさんあり、費用面での調整、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策など多岐に渡り、現在も調整中である。
・5月9日に国立競技場でオリンピックのテストイベントが日本陸連と組織委員会が主催で行われ、5月11日にパラリンピックテストイベントがJPA陸連と組織委員会が主催で行われる。
・マラソンについては5月5日に札幌で札幌マラソンフェスティバル2021という名前で行われる予定。皆様にも引き続きご協力いただきたい。

全体質疑応答

●(長野：小林) グループスタートの代用緑石は、全線に置くことが望ましいが、競技場に代用緑石が足りない場合は、一本おきに置くことは今後よろしいのでしょうか。

■(委員会) 整備されるまでは、それで構わない。

事務連絡 赤峰俊彦 幹事

・修正した資料について、質問について。

開会あいさつ 鈴木一弘 委員長

・オンラインでの会議であったが、対面での方式と違ったものがあり、これを反省点として、来年度の会議につなげたい。
・伝達講習会についても、昨年度の反省について報告をしていただきたい。講習会については、誤解のないように伝えていただきたい。
・陸上競技界を良い方向に持っていただきたいと思うので、今後ともご協力をお願いしたい。

第7期(2020-2021)ダイヤモンドアスリート 第1回・第2回リーダーシッププログラム報告

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介(青山学院大学)

2020東京オリンピックと、その後の国際大会での活躍が大いに期待できる次世代の競技者を強化育成する「ダイヤモンドアスリート」制度では、選出された競技者に様々なプログラムを提供し中長期的なエリートの育成を目指している。本稿では、「国際的なリーダーシップを発揮できるアスリートの育成」を目指す、リーダーシッププログラムの第1回、第2回の様子を報告する。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、プログラムはオンラインで実施された。

1. 第1回リーダーシッププログラム

実施日：2月26日

①第1部 為末大氏によるトークセッション

第1期から様々な形でダイヤモンドアスリートの成長に関わる、為末大氏(男子400mハードル日本記録保持者)とアスリート達とのトークセッションが実施された。為末氏から、本プログラムの核となる「リーダーシップとはなにか?」や「陸上競技は何のためにあるのか?」といった設問が投げかけられ、アスリート達から様々な意見や感想がだされた。為末氏は、アスリートとのやり取りの中で「自分の取り組んでいることの価値を認識し、言葉にする」ことの大切さや、「正解のない中で、周りの人たちとコミュニケーションをとりながら、よりよい方向へ導いていく」ことなどから、リーダーに求められる視点や考え方の共有がなされた。最後に、「コロナ禍の影響で、世の中にはストレスがたまっているが、一生懸命やっている人を応援したいのが人間の本性。社会がみんなを応援していることを忘れないで欲しい」とダイヤモンドアスリート達へエールが送られた。

②第2部 上田大介氏(JOC選手強化本部、インテグリティ教育ディレクター)による講義

ソーシャルメディアのリスクや活用法についての専門家の上田氏を招き「選手とソーシャルメディア(SNSリスクマネジメント)」をテーマに講義が行われた。トップアスリートになることによって、周囲からより高い注目を集める存在になり、マイナス面も含めて社会へ影響を与える存在であることが改めて示された。注目される人間に求められるリスクマネジメントやSNSが与える影響と使い方について、一つ一つ丁寧に、過去の事例や具体的な方法を示しながら紹介された。アスリート達は、SNSを使うことによるリスクと将来のために今やっておくべき3つの見直し(過去の情報、現在のつながり方、パスワード)や、トラブルを遠ざけるための3つの習慣(危険な時間帯を意識する、送信直前に冷静にな

る、ファクトチェックを行う)などを学習した。

2. 第2回リーダーシッププログラム

実施日：3月11日

①第1部 山口剛史選手(平昌オリンピックカーリング日本代表)による講話

山口選手を招き、「オリンピックに向かっての気づき」をテーマに講話が行われた。1998年の長野オリンピックから正式種目として採用されたカーリングの競技者である山口氏から競技環境が十分とは言えない状況の中、オリンピックを目指し、8位入賞を果たすまでの過程を説明された。特に自身がオリンピックの出場を3回逃した後に、「自分を見つめなおすこと」が転機であったと語る山口氏は、「応援される人」を目指しての環境づくりに尽力した経験を語った。プロ選手が少なく、「アマチュア」で競技を続ける人が多いカーリングの競技環境の中で永年トップ選手であった経験から、受講生に対し「応援される人」になるための大切さを説き、その目標を達成するために心がけてきたことや、具体的な行動について示された。

質疑応答では、アスリートから「引退に対する考え方」「進路変更に対する心境」などの質問について、山口氏との丁寧なやりとりがなされた。

②第2部 安藤奏氏(株式会社アクビー)によるワークショップ

人財育成・組織人事コンサルティング会社を運営する安藤奏氏を招き、「周囲の力を活かすコミュニケーション」をテーマに、ワークショップ形式でプログラムが実施された。安藤氏は、組織人事コンサルティング事業や教育研修事業を扱う専門家の立場から、「アスリートとして競技に取り組む際に『応援してくれる味方=ファン』を増やす」ことが競技人生を豊かにするとし、ファンを作ることのメリットやファンを増やすコミュニケーションのポイントの紹介がされた。自分を応援してくれる味方が増えることによって、「評価や役割などの側面で自己実現に近づく」ことや、「人間関係の質を高めることができ、思考や行動に好循環が生まれる」などのメリットが提示された。また、「周囲にファンをつくるコツ」として「興味・共感・信頼」の3つが示され、「自分から興味を示す」ことや「相手の思いを引き出し受け取る」、「挨拶など当たり前の行動の積み重ね」の大切さを意識づけた。受講者からは、「相手の視点にたって関係性を築くことが競技人生において重要だと気づけた」等の学びが得られた。

サトウ食品日本グランプリシリーズ 2021 シーズン開幕!

「日本グランプリシリーズ」は、2018年にスタートした、指定大会を対象に年間を通してポイントを争うトラック&フィールドの大会の総称です。

国際大会につながる国内ハイレベルの大会としてシリーズを通して競うことにより、世界で活躍できるアスリートの強化・育成を図り、国内各地で開催することで、国内のファンに広くトップ選手のパフォーマンスを披露し、ファン層の拡大や応援文化の定着を目指します。4年目となる2021年は、シリーズ指定の11大会が全国各地で開催を予定しており、さらに、ポイント対象の4大

会を加え、15大会にて獲得したポイントによりランキングを争います。

東京オリンピックに向けて、困難を乗り越えて記録に挑むアスリートの姿を日本グランプリシリーズを通じて、ファンの皆さまに伝えていきたいと思ひます。

日本グランプリシリーズを通し、アスリートたちが東京オリンピックへ向け挑む姿、自分の限界や記録に挑む姿などをファンの皆さまにお届けしていきたいと思ひます。

■ GPシリーズ指定大会 (11大会)

4月10日(土)	【熊本大会】第29回金栗記念選抜陸上中長距離大会2021	えがお健康スタジアム
4月11日(日)	【出雲大会】吉岡隆徳記念第75回出雲陸上競技大会	島根県立浜山公園陸上競技場
4月25日(日)	【神戸大会】第69回兵庫リレーカーニバル	神戸総合運動公園ユニバー記念陸上競技場
4月29日(木)	【広島大会】第55回織田幹雄記念国際陸上競技大会	広島広域公園陸上競技場
5月3日(月)	【静岡大会】第36回静岡国際陸上競技大会	小笠山総合運動公園 静岡スタジアム
5月4日(火)	【延岡大会】第32回ゴールデンゲームズinのべおか	延岡市西階陸上競技場
5月5日(水)	【水戸大会】2021水戸招待陸上	ケーズデンキスタジアム水戸
5月5日(水)	【大阪大会】第8回木南道孝記念陸上競技大会	ヤンマースタジアム長居
6月6日(日)	【新潟大会】Denka Athletics Challenge Cup 2021	デンカビッグスワンスタジアム
6月6日(日)	【鳥取大会】布勢スプリント2021	鳥取県立布勢総合運動公園陸上競技場
10月17日(日)	【山口大会】第18回田島直人記念陸上競技大会	維新百年記念公園陸上競技場

■ GPシリーズポイント対象大会 (4大会)

5月2日(日)~3日(月)	第3回鹿児島県陸上競技記録会 ※混成競技	鹿児島県立鴨池陸上競技場
5月3日(月)	第105回日本陸上競技選手権大会・10000m	静岡県小笠山総合運動公園 エコバスタジアム
6月12日(土)~13日(日)	第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技	長野市営陸上競技場
6月24日(木)~27日(日)	第105回日本陸上競技選手権大会	ヤンマースタジアム長居

■ サトウ食品日本グランプリシリーズ特設サイトはこちら

<https://www.jaaf.or.jp/gp-series/>



大会観戦ガイド

第105回日本陸上競技選手権大会・10000m

- ▼期日：2021年5月3日（月）
- ▼会場：小笠山総合運動公園 静岡スタジアム
静岡県袋井市愛野2300-1
- ▼アクセス：JR東海道本線「愛野駅」から徒歩15分、東名高速道路の「掛川インターチェンジ」から約8分、「袋井インターチェンジ」から約14分
- ▼競技種目：男子10000m／女子10000m
- ▼問合せ先：日本陸上競技連盟・事務局
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 9階
TEL：050-1746-8410（土・日・祝日を除く10：00～18：00）【競技運営本部（欠場届等競技運営に関する問い合わせ窓口）】静岡陸上競技協会 電話・FAX：054-253-9801
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1546/>



写真：フォート・キシモト

READY STEADY TOKYO — 陸上競技（東京2020テストイベント）

- ▼期日：2021年5月9日（日）
- ▼会場：オリンピックスタジアム 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1
- ▼アクセス：JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅／信濃町：徒歩5分、都営大江戸線 国立競技場（A2出口）：徒歩1分、東京メトロ銀座線 外苑前駅（3番出口）：徒歩9分
- ▼競技種目：
男子：800m、1500m、三段跳、砲丸投、ハンマー投（5種目）女子：100m、200m、400m、800m、400mH、4×100m リレー、4×400m リレー 棒高跳、三段跳、砲丸投、円盤投（11種目）※競技種目について今後変更が出る可能性がありますので、ご注意ください。
- ▼問合せ先：eメール限定にて行います。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 テストイベント陸上競技担当：
external.track_field@tokyo2020.jp

- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1623/>

第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技 第37回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技

- ▼期日：2021年6月12日（土）・13日（日）
- ▼会場：長野市営陸上競技場 長野市東和田 632
- ▼アクセス：
しなの鉄道 北長野駅下車 徒歩 約20分
長野電鉄 朝陽駅下車 徒歩 約15分
長野電鉄バス 運動公園線 運動公園下車
上信越道 須坂長野東インターチェンジより 約20分
- ▼競技種目：
【日本選手権】男子十種競技／女子七種競技
【U20日本選手権】男子十種競技／女子七種競技
- ▼問合せ先：
【エントリー操作・決済に関する問い合わせ窓口】
日本陸連会員登録サポートセンター
TEL：03-6434-1216（平日10：00～17：00）
問合せフォーム <https://start.jaaf.or.jp/support>
【競技運営本部（欠場届等 競技運営に関する問い合わせ窓口）】〒381-0038 長野県長野市東和田 632 長野市営陸上競技場（一財）長野陸上競技協会 担当：葛城 TEL：090-1867-7044 FAX：020-4664-1771
E-mail: info07@nagano-rk.com
【日本陸上競技連盟・事務局】
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2 9階
TEL：050-1746-8410（土・日・祝日を除く10：00～18：00）
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1555/>



写真：フォート・キシモト

事務局からのお知らせ

◆◆◆第105回日本陸上競技選手権大会 第1弾キービジュアル公開◆◆◆

「第105回日本陸上競技選手権大会」第1弾キービジュアルのテーマは「頂点の先にある挑戦」です。

2013年9月、2020年五輪開催地が「東京」に決定して以来、「2020東京オリンピック」を目指す選手の挑戦が始まり、多くの苦悩・喜び、そして異例の延期による葛藤など、様々な想いや経験を経て、今「東京への最終章」が始まります。

そして、この戦いを制し、その先の更なる挑戦への切符を手にして、今夏の明るく輝かしい舞台へ向かう選手たちへの想いを込めて、「頂点の先にある挑戦」というキャッチコピーといたしました。

テーマを表現するにあたり、ビジュアルには1964年東京オリンピック男子マラソン日本代表として日の丸を背負った、君原健二さんのユニフォームを使用。半世紀が経過した2021年も変わらずに受け継がれる誇りと、応援する・支える全ての人にとって、いつの時代も変わらない母国で開催される「五輪」への希望と想いを、このユニフォームで表現いたしました。

今大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮しながら開催し、選手達の「頂点の先にある挑戦」に懸ける想いを届け、大会に関わる全ての方々への記憶に残る競技会を目指します。

満足に練習できない日々、
黙々と技を磨き続けた日々、
その試練の先へ進むために競う
日本選手権。

切符を掴み取った者だけが、
刻み続く誇りをまとうことが許される。

2021年、半世紀ぶりに東京の舞台をかけて競う。

ナンバーワンしかいらない。
その栄冠は、さらなる戦いへの始まり。



〈開催概要〉

開催日程：2021年6月24日（木）～27日（日）

開催会場：ヤンマースタジアム長居（大阪）

公式サイト：<https://www.jaaf.or.jp/jch/105/>

ハッシュタグ：#日本選手権 #東京への最終章 #頂点の先にある挑戦

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
麻場 一徳（陸連強化委員長）
鈴木 英穂（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

石井 朗生
◇時報編集担当
石田 夢

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869